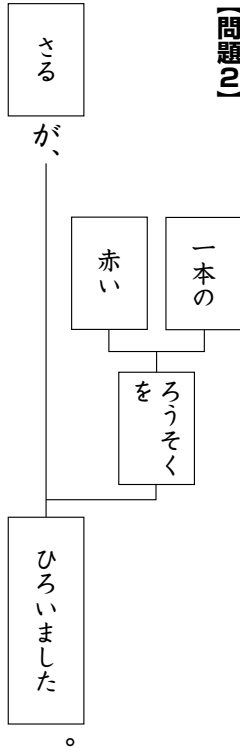


# スティーパーの答えとくわしい考え方

## 【問題1】 ひろいました。

述語をさがす問題です。日本語の場合、述語は文の末尾にあることが多いので、さがしやすいでしょう。また、よく省かれることの多い主語とくわべて、あまり省かれることはなく、安定しています。文を読むときは、つねに述語に注目するようにしましょう。



## 【問題2】

どのような「ろうそく」「一本の」と「赤い」とが、並列（へいれつ）の関係にあることを図で確認（かくん）できればよいでしょう。このように文の関係を図式化（ずしけ）することは、文の読解（どくかい）に便利です。図式化（ずしけ）にもさまざまな方法がありますが、しばらくは文節を単位とした単純（たんじゆん）な図式（ずしけ）を練習（れんしゆ）します。

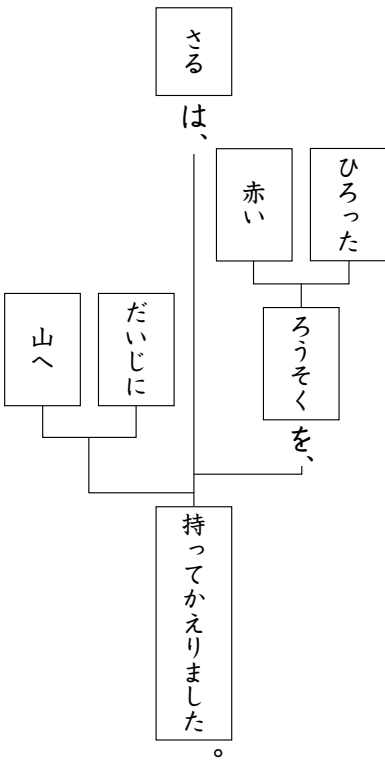
## 【問題3】 ① 美しい。 ② きれいだ。

単文の述語を取り出す、基本的（きほんてき）な問題（もんだい）です。述語は主語を説明（せつめい）する言葉（ことば）で、文末（ぶんまつ）に来る（くる）ことが多い、言い切（いひきり）りの形（かたち）が多い（おおい）ということ（こと）などを目安（めいばん）にさがします。

## 【問題4】 火花だ

これも述語を取り出すのと同時に、主語と述語だけの文を作る問題（もんだい）です。文は主語と述語（じゆ）だけでも、成り立ち（なりたち）ます。また、動詞（どうし）、形容詞（けいようし）（けいようし）などの用言（ようげん）が述語（じゆ）になりますが、このほか、助動詞（すけどうし）がつけば名詞（めいし）も述語（じゆ）になります。

## 【問題5】



この文の中心になるのは「さるは」「ろろそくを」「持ってかえりました。」「です。」「ひろった」と「赤い」は両方とも「ろろそく」の説明、「だいに」「山へ」は「持ってかえりました」の説明であることがわかります。文の理解(りかい)の最初は、中心をつかむこと、その次に何が何を説明しているのかをつかむことが必要になります。

### 【問題6】 さるが

主語をさがす作業とよくしていますが、動詞からその動作の主をさがす問題です。主語の見えない文が大半の古文などにも、広く応用(おうよう)のできる文のつかみ方です。

### 【問題7】 さる

述語のある一文の中に見えない主語を、その前の文脈からさがす問題です。問題6と同じく、動詞の動作の主をさがす作業でもあります。主語の見えない文は、このようにして必ず主語を確認するようになると、確実な読解に近づきます。

### 【問題8】

- ① 主語 × 述語 なりました。
- ② 主語 × だれも(だれも) 述語 ありません。
- ③ 主語 さるが 述語 (ひひつて)きました。

述語となる動詞の、動作の主を考えれば主語がわかります。問題文に「それぞれぬき出しなさい」とあるので、文脈から類推(るいすい)する問題ではありません。①②ともに、動作の主は山の動物たちです。②の場合、「だれも」を主語と見る考え方もあります。

### 【問題9】

- ① ア 花火が イ 花火が ウ ×
- ② ア × イ みんなが
- ③ ア みんなは

①「ここで言う」主語「も動作の主です。間かせたのはさるなので、文の中にないから×です。」

②「うつくしい」のは花火ですが、文中にありません。「見たい」と思ったのは山の動物たちです。それは後にある「みんな」と同じなので、これを主語とします。

③も②と同じ考え方です。

### 【問題10】

- ① エ ② イ

主語・述語とは言葉のつながりです。このステップでは、言葉の中からつながりを見つけて練習をしました。次のステップでは言葉のつながりへの認識(にんしき)をさらに深めていきます。これまでの練習とは逆(ぎやく)に、つながりから言葉を選ぶ練習をします。